

人間の知識は微々たるものであること、摂理と靈魂は存在するのではないかということ、人間は摂理によって生かされ靈魂は永遠である

### ①量子もつれ:

電子や光子は波動と粒子が共存した状態をとることができ、その状態がどう観測されるかについては、偶然に支配されるため確率的にしか予想できない、そして電子と比較にならない大きなものとの相互作用が起きると、電子の波が収縮する（幅のない鋭い針状の波に縮み粒子としての電子が姿を現す）とされています。逆に言えば、観測するための行動は、その粒子のその後の状態に影響を与えるということになる。その粒子のその後の状態に影響を与えるということになる。つまり、**精神と物質はまったく別の概念で互いに直接関係することはないという、精神と体の二元論は、量子力学の実験的証拠によって揺らぐことになる。**

矢作直樹

東京大学大学院医学系研究科・医学部救急医学分野教授  
医学部附属病院救急部・集中治療部部长

人は死なない

ある臨床医による摂理と靈性をめぐる思索

人間の知識は微々たるものであること、摂理と靈魂は存在するのではないかということ、人間は摂理によって生かされ靈魂は永遠である

## ②気功

中先生の気を体験した東京大学工学部の同僚教授（専門は流体力学）の解釈では、**気を送られる側の人**が自動的に動かされる「何か」を受取り、その「何か」に感応して自分自身が動いているとしか考えられないということでした。可視化できる現象は確かにあるわけで、少なくとも彼の意見では、ニュートン力学が支配するこの日常世界の常識を無視してその現象を考えることはできないそうです

<https://youtu.be/w1Kkdj2CCYc?t=145>

矢作直樹

東京大学大学院医学系研究科・医学部救急医学分野教授  
医学部附属病院救急部・集中治療部部长

人は死なない

ある臨床医による摂理と靈性をめぐる思索

**人間の知識は微々たるものであること、摂理と靈魂は存在するのではないかということ、人間は摂理によって生かされ靈魂は永遠である**

**③医師としての体験**

- **自分の中に他人が入り込んで飛び降りた患者**
- **体外離脱体験の患者**
- **死んだ母親との交霊**

**矢作直樹**

東京大学大学院医学系研究科・医学部救急医学分野教授  
医学部附属病院救急部・集中治療部部长

**人は死なない**

ある臨床医による摂理と靈性をめぐる思索

人は死なない  
ある臨床医による摂理と霊性をめぐる思索

矢作直樹

東京大学大学院医学系研究科・医学部救急医学分野教授  
医学部附属病院救急部・集中治療部部长

人間の知識は微々たるものであること、摂理と靈魂は存在するのではないかということ、人間は摂理によって生かされ靈魂は永遠である

## 真体

生死にかかわらず肉体から離れても存続する存在  
(肉体と同じサイズ、スタイル、個性を持っているが電磁波のように見えない)

## 魂

肉体をまとっている真体

## 霊

肉体を脱ぎ去った(他界した)真体

## スウェーデンボルグ(17~18世紀の学者) 霊界日記

- ・死後も真体が肉体を除き、自分の意識、記憶を含むすべての個性を保持して生が存続する
- ・職業を持ち、飲食をし、遊び、家庭生活を送る
- ・行きたい所に瞬時に移動し、人に瞬時に会える